2020年運動部が大健闘

鎌倉学園 硬式野球部・アメフト部監督に聞く

高校野球の秋季県大会で、鎌倉学園は決勝まで勝ち進み、33年ぶりに関東大会に出場。

また、アメリカンフットボール部は29年ぶりの全国大会出場を果たした。

小林監督

竹内監督

今年の部活は新型コロナウイルス感染拡大で、部員がそろっての練習はようやく6月下旬ごろから開始された。

しかし、高校野球では甲子園大会が中止され、「目標を失ってのスタートだった」と竹内智一監督(39)は話す。

8月に行われた代替大会では同校は8月9日の3回戦で敗退。3年生16人はその試合で引退したが、3年生があきらめずに戦う姿を間近でみていた1、2年生72人が3年生の意志を受け継ぎ、秋季神奈川県大会で決勝まで勝ち進んだ。

9月27日、決勝の東海大相模高との試合は8対2で敗れたが、33年ぶりの秋季関東大会に出場。

関東大会では、ベスト8に残り、10月27日の準々決勝で専大松戸に6対0で敗れた。ベスト4に入れば甲子園行きが確定していたが、「あと1つ勝ち切れなかったのが、素直に悔しい」という。

硬式野球部

アメリカンフットボール部

竹内監督は同校野球部OBで、早稲田大学卒。早大では学生コーチを務めた。2006年から母校に勤務し、2013年に硬式野球部の監督に就任した。竹内監督にとってのやりがいは、「多くの人と喜びを共有できること」で、「甲子園に出て校歌を歌うことが目標。学園全体で喜びを共有したい」と話している。

関東大会1回戦で森高裕一郎選手

全国大会で佼成学園と対戦

創部55年目のアメリカンフットボール部は、29年ぶりに全国大会に出場した。2回戦で2016年から全国3連覇、昨年準優勝の強豪佼成学園と対戦し、14対54で敗戦した。しかしながら、王者相手に2つのタッチダウンを奪ったことは、大健闘と言える。

アメフト部も7月からチーム練習を再開した。部員は54人。

小林哲朗監督(28)は、「一番の勝因は、基本練習を意欲高くやってくれたこと」と話す。同校アメフト部OBの小林監督は、中央大学時代と、社会人チーム「ノジマ相模原ライズ」で2年間、ラインバッカーとして活躍した。2017年から同校に勤務し、アメフト部の監督に就任した。

神奈川は、慶応高と法政二高の2強時代が長年続いたが、3校が県内をリードしている。この状況下で「神奈川県大会で勝ち、関東大会で勝てるチームになっていくことが今は目標」といい、「母校でアメフトに携われていることが幸せ。部員たちが高校時代楽しかったといって卒業してくれたら」と微笑む。

一昨年は陸上部が第70回全国高校駅伝に南関東代表として出場し、注目を浴びた。「生徒たちにお互いを意識して頑張ろうという連帯感がある」と話す小林監督。

竹内監督は「年々悔しい思いが受け継がれていってその積み重ねが今回の成績に結びついた」と話し、そして「小林も私も母校で生徒たちと同じ夢を追える、そんな幸せはないと思う」と結んだ。

税についての作文

23人が受賞

国税庁が全国納税貯蓄組合連合会との共催で行っている令和2年度中学生の「税についての作文」に全国4,877校から313,725編の作文が寄せられた。鎌倉税務署管内では205編の応募があり、うち23作品が受賞した。受賞者は次のとおり。(敬称略)

▼神奈川県納税貯蓄組合連合会会長賞=国分智樹▼鎌倉税務署長賞=内田健心・七澤健太郎(以上鎌倉学園3年)▼鎌倉税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞=加納沙耶香(横国附属鎌倉3年)▼鎌倉団体長会賞=持田悠翔(鎌倉学園3年)▼横須賀県税事務所長賞=川股優花(横国附属鎌倉3年)▼鎌倉市長賞=水野湘太(第一3年)▼鎌倉市教育委員会賞=久保まいら(大船3年)▼鎌倉市議会議長賞=西田渚音(第一3年)▼逗子市長賞=橋本翼(逗子開成3年)▼逗子市教育長賞=日沖翼(久木2年)▼葉山町長賞=土川瑛大(鎌倉学園3年)▼葉山町教育委員会教育長賞=荒木一究(南郷2年)▼東京地方税理士会鎌倉支部長賞=吉田百花(腰越3年)▼鎌倉税務署管内納税貯蓄組合連合会優秀賞=石森七海(大船3年)今井小百合(岩瀬3年)・内田瑞樹・塚原碧一・平井茉莉(横国附属鎌倉3年)・兼松浩太・中村優護・ブランチ瑠唯(鎌倉学園3年)田邉凛々(玉縄3年)

里山の滋味を堪能

葉山の森でキノコ探索

自然塾や環境保全活動など多彩な自然体験の場を提供する「自然体験教育研究会NEES」(山田陽治代表)が昨年12月13日「冬のキノコ探索〜二子山山系探検」を行った。都内や千葉などからも親子連れが集まり、約40人が冬の里山の魅力を体験した=写真。

キノコ探索の企画は今秋から始まり、横浜市の侍従川流域での活動で山田さんと30年来の親交を持つ画家でキノコ採集研究家の飯村優介さん(41)が同行。探し方のコツや食べられるキノコの見分け方などを解説。境橋バス停付近から出発した一行は、大沢谷から約150mを登るコースを巡りながらキノコ探索や自然観察を楽しんだ。

今年は生きている木の根元に生える種類のキノコは少なく、山道では毒性のあるニガクリタケが見つかり、麓の倒木や切り株からはエノキやアラゲキクラゲなどが採集された。表面が薄茶で広い笠を持つエノキの形には「スーパーのエノキと全然違う」との声も。

ゴール地点の谷戸で収穫したエノキとアラゲキクラゲに自生のノビルを加え醤油炒めにして試食。天然エノキの柔らかな食感に「貝のような味がする」と冬の里山の滋味を堪能した。

参加者から「キノコは見分けが難しいのでこういう機会は貴重」と感想があり、目黒区在住の桑原天海(てんかい)くん(12)は「もっとたくさんのキノコの種類を勉強したい」と調理にも加わった。

山田代表は「キノコは季節によって違った楽しみがある。春にも企画したい」と話していた。(K)

手作り弁当バニー

1月から燻製販売

まちの弁当屋さんとして親しまれている鎌倉市材木座の手づくり弁当「バニーフーズ」(高橋暢人社長)が昨年12月からメニューを改定して、人気商品を中心とした生産に力を注ぐ。1カ所500円で配送も受付ける。効率化を図ることで、従業員の仕事の質も高まるという。

同社は、1986年、もともと精肉店だった先代が弁当販売を始め、今にいたる。かねてから障害者雇用を行ってきたが、2年前に就労継続支援B型事業所「ラパン」(市内大町)を開設し、福祉事業所として27人の利用者がそこで一般の職員とともに一日300食以上の日替わり弁当を作っている=写真。

「できるだけ手作りであたたかみのある弁当を障害のある方といっしょに作っている」と話す高橋社長。「みんな素直で、こちらも成長させてもらっている」と利用者の力を評価。倉方徳子さんは勤続歴約17年のベテランスタッフだ。

コロナ禍の昨年は3月から4月にかけての歓送迎会もなかったし、海の家も花火もなく売り上げが激減した。それでも11月に移転して新装オープンした藤沢店は女性向けの「きちんとランチ」には定評があり、野菜の皮でだしをとったベジブロス(2百円)、玄米、十五穀米、白米の3種から選べるご飯も好評という。

1月から燻製のインターネット販売を始めるという。問い合わせバニーフーズ☎0467・25・4416

新刊案内

ぼくの鎌倉散歩

田村隆一 著

酒を愛し、自由を愛した詩人は、路地をさまよい、野の花を愛し、海の言葉に耳を傾け、居酒屋で酒を味わう。

1970年に東京から鎌倉へ転居し、後半生を過ごし終の住処とした詩人・田村隆一が鎌倉をうたった詩とエッセイ33篇を収めた『ぼくの鎌倉散歩』が刊行された。

第一詩集『四千の日と夜』で鮮烈なデビューを飾り、「荒地派」の中心的存在として戦後の現代詩を牽引した。死の直前に刊行された『1999』に至るまで生涯にわたり、詩や評論、随筆、翻訳など数多く手がけた。

本書は、47歳から75歳まで、材木座、稲村ガ崎、二階堂と居を移しながら終生暮らし、愛した鎌倉を題材にした作品を集めた。1600円(税別)、港の人刊☎0467・60・1374

さかさま研究所の脳内地図 ふるいけやの呪縛(じゅばく)

伊藤文人 著

『まさかさかさま』の絵本シリーズが子どもたちに人気を呼んだイラストレーターの伊藤文人さんが、『ふるいけやの呪縛』を出版した。

いくつかの別の俳句をさかさにすると、すべて松尾芭蕉の「ふるいけや かわずとびこむ みずのおと」になってしまう、不思議で面白い、さかさ文字の本。

俳句以外に、鏡をあてると「歩」が「走」になる「鏡で遊ぼう」、「かえる」が「さそり」、「きつね」が「ひぐま」になる「さかさ文字はくぶつかん」なども収録している。

伊藤さんは、『MC・エッシャー生誕100年に捧げる 超感覚ミュージアム』で金賞受賞ほか、数々のトリックアートコンテストで受賞。鎌倉朝日の広告デザインも担当している。伊藤さんにとって「文字はおもちゃそのもの」という。1500円(税別)、発行・みらいパブリッシング、発売・星雲社☎03・3868・3275

鎌倉といえば・・・
鳩サブレー
豊島屋
http://www.hato.co.jp